AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録（2014.12）平成２５年度:78-81.

看護師による大学生へのHIV/AIDS 予防教育の取り組み

川端 有紀

看護師による大学生へのHIV/AIDS予防教育の取り組み

旭川医科大学病院　　川端　有紀

【目的】

看護師によるHIV/AIDS予防教育活動が大学生に与えた影響について明らかにする。

【研究対象】

2012年度に某大学で性教育学を履修した学生74名のうちアンケートに協力を得られた66名。

【研究方法】

この科目の1コマを使用しHIV/AIDS予防に関する講義を実施した。無記名自記式アンケートにて講義前後でHIV/AIDSに関する知識とHIV感染可能性の認識について調査した。感染可能性の認識については講義前後で変化を分析した。HIV/AIDSに関する知識については文脈の意味・類似性に従いコード化しカテゴリー化した。

【結果】

有効な回答が得られたのは66名中63名で、平均年齢は19.2歳であった。高校でHIVの授業を受けた経験は49名(77.8%)にあった。「HIVに感染する可能性がある」と思う人は講義前14名（22.2%)･講義後20名（31.7%)、「あるかもしれない」と思う人は前25名（39.7%）・後31名（49.2%)、「わからない」人は前17名（27.0%）・後9名（14.3%)、「ない」と思う人は前7名（11.1%）・後3名（4.8%）であった。Wilcoxonの符号付順位検定で前後の認識を比較するとP＜0.001と有意差が見られた。講義前の知識は［性行為や血液で感染する］［完治する治療法がない］［免疫力の低下する病気］［日常生活では感染しない］［感染から潜伏期間を経て発症する］など12のカテゴリーに分類された。講義後新しく得た知識は［HIVとAIDSの違い］［地域の感染状況］［男性同性愛者の感染が多い］［性行為によるリスク］［薬により発症をコントロールできる］など16のカテゴリーに分類された。

【考察】

学生は高校までに知識は得ているが、ほとんどが教科書上の一般的な知識にとどまっている。性感染するという知識に、地域の感染状況やどのような性行為が危険なのかという知識が加わり、自己の感染可能性を認識するという変化が見られた。根拠となる統計や情報を示し医療的な実際を伝えることは、HIV感染は自分にも起こり得るという認識の変化につながった。

看護師による大学生への HIV/AIDS予防教育の取り組み

旭川医科大学病院　看護部
川端有紀

目的

看護師によるHIV/AIDS予防教育活動が大学生に与えた影響について明らかにする

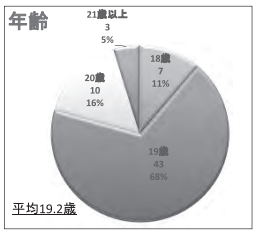
研究方法

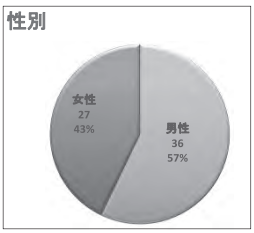
1. 対象：
   平成24年度にB大学の性教育学を履修した学生74名のうち、アンケートに協力を得られた学生66名
2. データ収集方法：
   HIVに関する講義の前後で、無記名自記式アンケートに記載してもらい、その場で回収した

講義前	①今までのHIV/AIDSに関する授業の経験の有無	選択式
	②現在のHIV/AIDSに関する知識	自由記載
	③HIVに感染する可能性があると思うか	選択式
講義後	④新しく知った、わかった知識	自由記載
	⑤HIVに感染する可能性があると思うか	選択式
	⑥HIV感染予防のために自分ができること	自由記載
	⑦講義に関する意見感想	自由記載

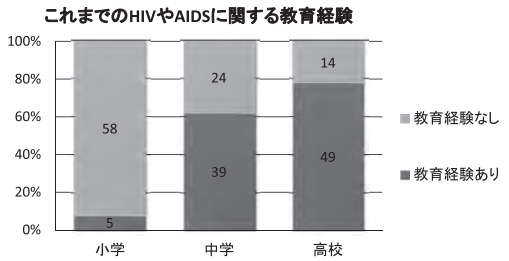
結果①　属性

アンケートに回答を得られた66名中、有効な回答を得られたのは63名（95．4%）





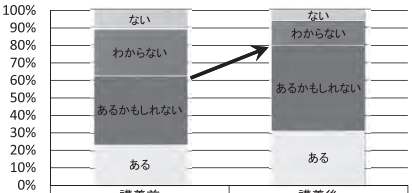
結果①　属性



全員が、これまでにいずれかの教育機関でHIV／AIDSに関する教育を受けた経験があった。

結果②　感染可能性の認識

「自分はHIVに感染する可能性があると思いますか？」

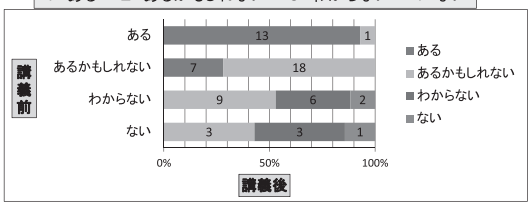


	講義前	講義後
■ない	7	4
■わからない	17	9
■あるかもしれない	25	31
■ある	15	20

結果② 感染可能性の認識

講義前に比べて、講義後には「自分はHIVに感染する可能性があるかもしれない」「自分はHIVに感染する可能性がある」との認識への変化がみられた。（P<0.001）

「自分はHIVに感染する可能性があると思いますか？」
1. ある　2. あるかもしれない　3. わからない　4. ない



結果③ HIV/AIDSに関する知識

講義前　現在のHIV/AIDSに関する知識

カテゴリー（コード数）	コード
性行為や血液で感染する(26)	• AIDSは性的接触をすると感染する • 血液接触や性接触などによって感染する • 母体感染もしくは性交渉での感染 • 性行為や他人の血液から感染する
完治する治療法がない(16)	• 感染すると今のところ治すことができない • 不治の病気である • 今の医療では完全に治すことができない
免疫力の低下する病気(13)	• AIDSに感染すると体の抵抗力が弱くなる • 免疫不全になり、感染症にかかりやすくなる • 免疫機能が働かなくなることで病気にかかりやすく、治せなくなる
日常生活では感染しない(11)	• 風邪のように簡単に感染するものではない • 性行為などで感染するが、普段の生活では感染しない • 普通に暮らしていたら、人にうつらない
感染から潜伏期間を経て発症する(8)	• 感染してから何年かの潜伏期間がある • 潜伏期間が長く、知らないうちに発症する場合がある • 発症するまで時間がかかる

結果③ HIV/AIDSに関する知識

講義前　現在のHIV/AIDSに関する知識

カテゴリー（コード数）	コード
薬により発症をコントロールできる(5)	• 完治する薬や治療方法は今はないが、発症を抑えるものはある • 薬を飲まなきゃ死ぬが、飲み続ければ生きられる可能性が高い
怖い・危険なイメージ(5)	• 危険な性の病気 • 怖い病気である
男性同性愛者での感染が多い(4)	• 同性愛者の病気 • 同性愛者（特に男性）の間で感染しやすい
検査ができる(3)	• 匿名無料で検査を受けることができる。 • 保健所などで検査できる。
アフリカでの感染が多い(3)	• 海外（アフリカ、東南アジア）の感染者が多い。 • アフリカなどの発展途上国では被害が著しい。
コンドームで予防できる(2)	• コンドームで予防。 • コンドームで防げる。
間違った知識(2)	• 遺伝する。 • 感染力が強い

結果③ HIV/AIDSに関する知識

講義後　新しく知った、わかった知識

カテゴリー（コード数）	コード
HIVとAIDSの違い(12)	• HIVはAIDSの原因となるウィルスのこと • HIVとAIDSの違い
地域の感染状況(12)	• 北海道の今の現状 • 日本での患者数が思っていたよりも多い
男性同性間での性感染が多い(10)＊	• 男性の同性間性的接触での感染が多い • 男性同士のセックスでHIV感染しやすいのは知らなかった
性行為によるリスク(8)	• 同性間でコンドームなしでするのは危ない • どの性行為が感染しやすいか
薬により発症をコントロールできる(8)	• HIVを抑える有効な薬があること • 完全に治せないが、薬を飲み続ければ普通の日常生活を送れる
早期発見の重要性(5)	• とにかく早期発見が大切 • 本当に恐ろしいのはHIVよりは免疫低下による合併症

結果③ HIV/AIDSに関する知識

講義後　新しく知った、わかった知識

カテゴリー（コード数）	コード
感染経路(5)	• 性行為、輸血、薬物のまわし打ち、タトゥー • タトゥーも原因になるとは知らなかった
男性同性間での感染が多い理由(4)	• 同性愛者に多いと知っていたが、理由を知らなかったので納得 • なぜ男性同士の性行為でHIVに感染しやすいか
アメリカでのHIV対策(4)	• アメリカと日本でのHIVとAIDSのとらえ方の違い • アメリカの進んだ治療システム
感染予防行動の重要性(4)	• ゴムの大切さは十分に理解した • コンドームを使うことで自分だけでなく多くの人の感染を予防できる
感染予防行動への意識(4)	• わかっていても意識が薄れた時は危ない • 自分の管理はきちんとしなければいけない
身近にあるHIV感染(2)	• HIV/AIDSにかかる可能性は誰にでもある • 20代30代にも発症していて、私たちにとっても身近なものである
検査の重要性(2)	• 子どもを作る前は特にHIVの検査を受けておく必要がある
HIV感染での妊娠(1)	• AIDSになっていても、子供を作ることができること

結果④ 自分のできる感染予防

HIV感染予防のために自分ができることは何ですか？	人数
避妊具の装着・正しい使用	42
パートナーとの相談・関係構築	15
検査をする	14
HIV/AIDSの知識・理解を深める	6
性行為をしない、不特定多数との性行為をしない	5
血液に触れないようにする	2
HIV/AIDSの知識を周囲に伝える	1

結果⑤　感想

- 相手のためにもきちんと性感染の知識を持たなければならないと思った
- 自分だけではなく、大切な人も苦しめてしまうのは耐え難いことであるし、そんなことはしたくないと思った
- 現場を通して感じたことを伝えてくれたので、より身近なことだと思えた
- 北海道のHIV／AIDS報告件数を目にして、他人事だと感じていたが、案外自分に身近な話であると感じた
- リアルな現場の方の話だったのでとても勉強になった
- 偏見を持たれがちな病気だが、命に関わることなのでもっと慎重に考えるべき問題だと思った
- 絶対ゴムを使います！
- 自分自身にとって無関係ではないということを学べたことが、自分にとって良かった
- 実体験をまじえた講義で、性感染症をより身近なものだと感じることができた
- 今後の病気の見方が変わった
- HIVやAIDSが他人事ではないのだ、自分自身の意識が大切なのだと強く思うことができた
- こうした知識をどう子供たちに伝えていくのかが自分の今後の課題で、これからも知識を増やしていきたい
- 「怖い」というイメージがあったが、しっかりと向き合えば対処ができる病であるのだと感じた
- 今までで、一番しっかりとこのことについて考えた
- 今まで受けてきた授業より、具体的でわかりやすかった
- 旭川の統計の提示により、身近に危険が潜んでいることを把握できた
- 統計を見て友達と検査を受けに行くことにした
- 検査してみようと強く思った
- 今後の人生で役立つと思う

考察

講義前　　講義後

教科書上の知識

- 性行為や血液で感染する
- 日常生活では感染しない
- 感染から潜伏期間を経て発症する
- 完治する治療法がない
- 免疫力の低下する病気

遠　認識　近

考察

講義前　　講義後

興味・関心
知りたい！伝えたい！
考えたい！

医療的な実際

- 看護師として感じたこと
- 経験した事例

教科書上の知識

- 性行為や血液で感染する
- 日常生活では感染しない
- 感染から潜伏期間を経て発症する
- 完治する治療法がない
- 免疫力の低下する病気

根拠となる統計や情報

- HIVとAIDSの違い
- 地域の感染状況
- 男性同性間での性感染が多い
- 性行為によるリスク
- 薬により発症をコントロールできる

遠　認識　近

まとめ

根拠となる統計を示し判断できる情報を与えること、医療的な実際を看護師の経験より伝えることは、HIV感染は自分にも起こり得るという学生の認識の変化につながった